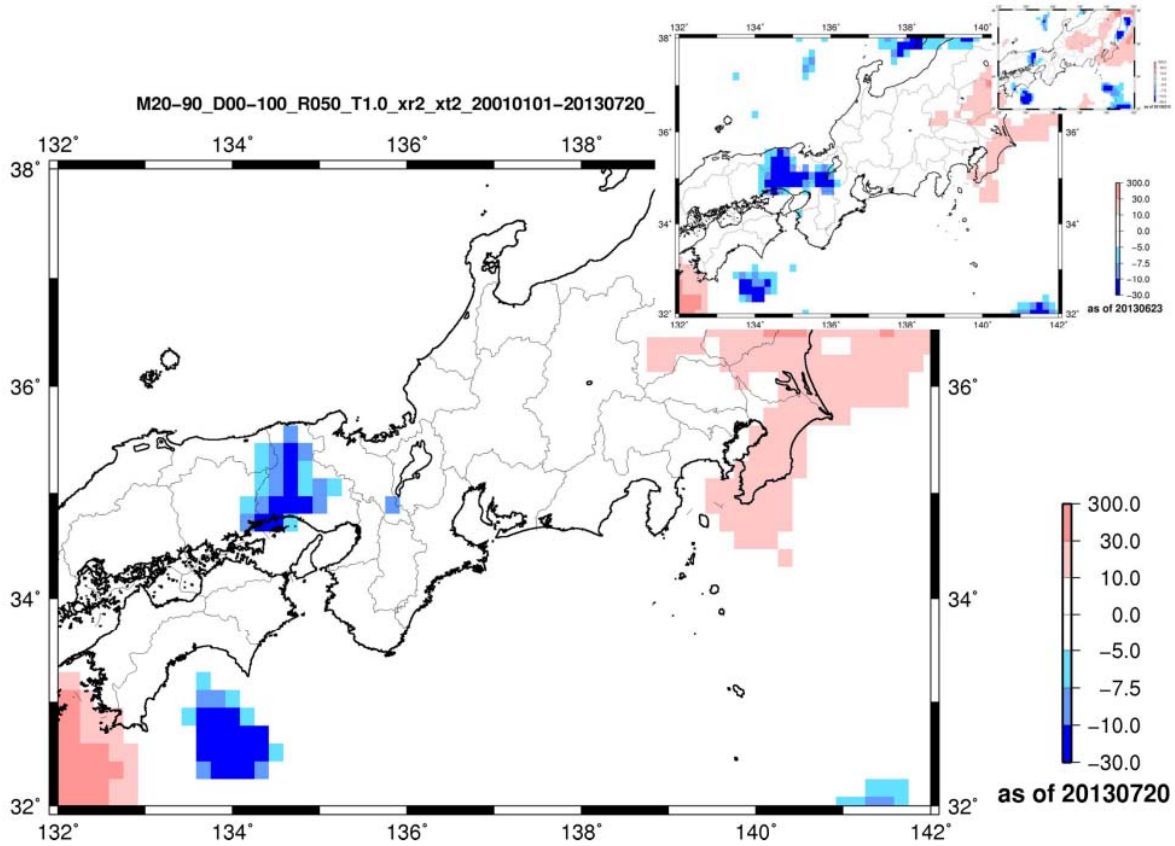
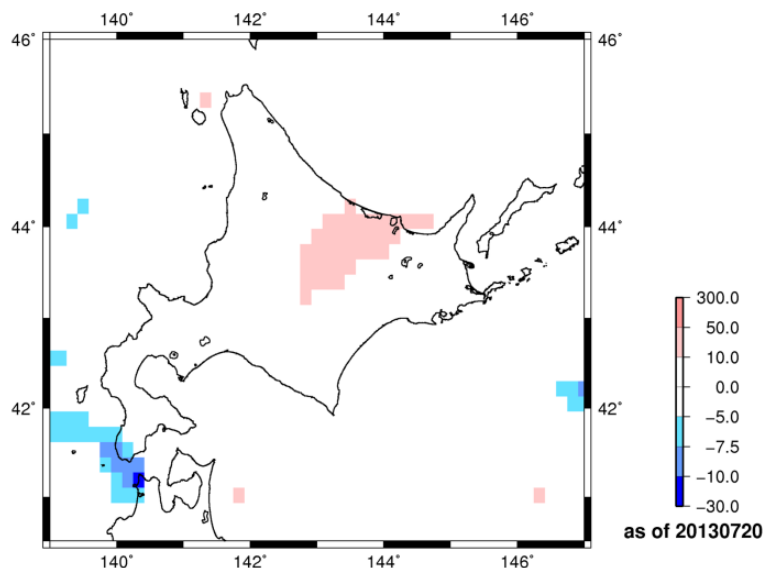


東海・近畿地方の状況など

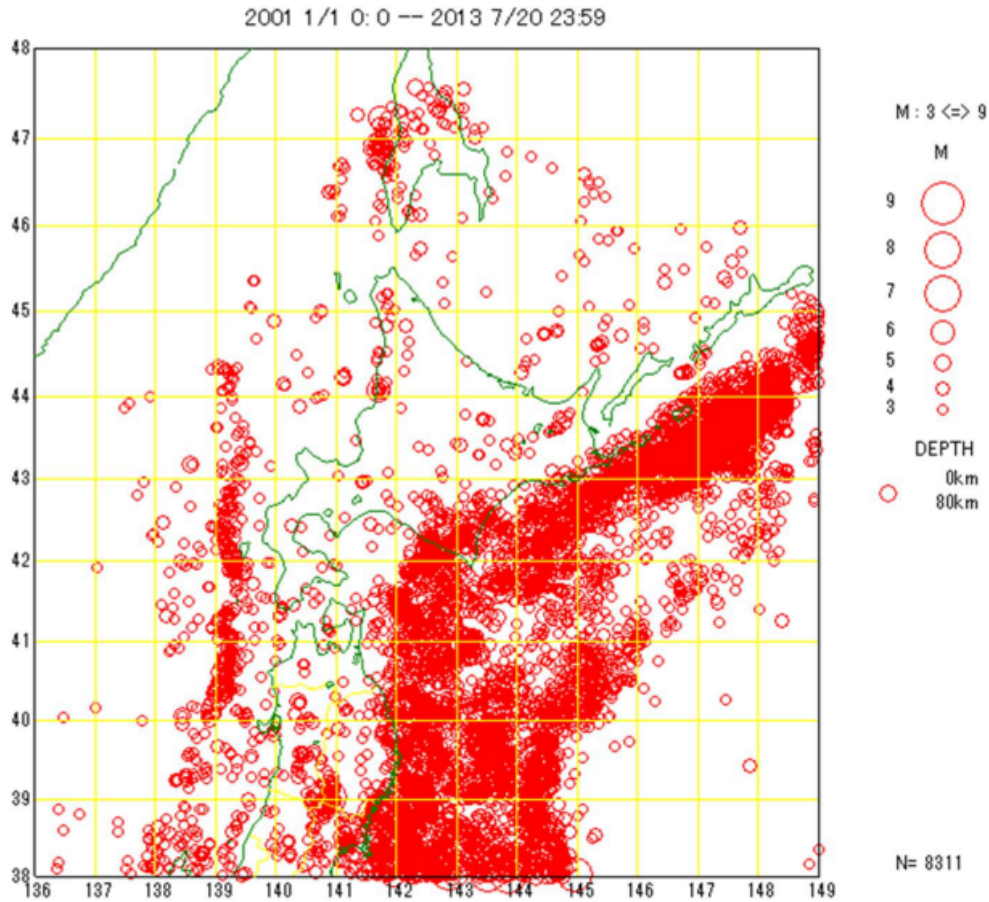
6月24日に続き、東海地方ならびに近畿地方の地下天気図です。海域の地震データも使用しています。右上の小さな図は6月23日とそれ以前の3月の地下天気図で、基本的にはそれほどパターンが変化していない事がわかります。この1ヶ月で少し兵庫県を中心とする静穏化領域が小さくなりました。なお東海地方には異常は出ておりません。



前回のニュースレターで今後色々な地域での解析を開始するという事をお伝えしましたが、まず第一弾の北海道広域の予察的な解析結果です。



7月20日の時点では、北海道ならびにその太平洋沖合、日本海側にも顕著な異常はありません。一般的に地下天気図の解析では、実際に図示する領域（解析エリア）よりも外側の地震のデータも必要となります。今回の北海道地域の解析では下図の領域のデータを使用しました。今後北海道の陸域についても詳細な解析を進めていきます。



また、この7月12日は、奥尻島に甚大な津波被害をもたらした北海道南西沖地震から丁度20年という日でした。地元はそれなりに復興しましたが、果たしてその復興が、地元の希望がどの程度満たされたのかは検証すべき時期に来ていると思います。



津波被害直後の青苗地区と現在